



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

教育課程研修（中堅教員研修）

平成28年 6 月10日（金）実施

概
要

学習指導要領の変遷及び次期学習指導要領改訂に向けての方向性や趣旨等についての理解を深め、各学校における取組の充実を図るために必要とされる視点について学ぶ。

「これからの学校教育の方向性や教員に求められる資質・能力について」

講師：横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授

未来を生きる子どもたちにどんな力を付けるのか

未来に通用する
学力



学力観の転換 「覚える学力」から「考える学力」へ

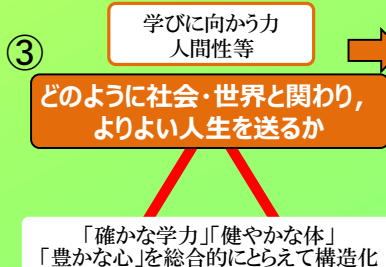


資質・能力の育成に向けて必要な視点とは
「考えさせる」こと

授業中に考えなければならない環境や状況を創る→主体的・能動的な学び

育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念

知識・技能を習得させる
とともに、これらを活用
して課題を解決するた
めに必要な能力を育み、主
体的に学習に取り組む態
度を養うためのカリキュ
ラムをデザインし、教育
活動を行う



①や②の力が働く方向性を決定付け
る情意や態度等に関わるもの。以下の
ようなものが含まれる

- ・ 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの
- ・ 多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの

各教科に関する個
別の知識や技能など。
身体的技能や芸術表
現のための技能等も
含む

①

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

②

主体的・協働的に
問題を発見し解決し
ていくために必要な
思考力・判断力・表
現力等

高木名誉教授から送付いただいた中央教育審議会教育課程企画特別部会（平成28年8月1日実施）資料等から作成しています。研修当日の配付資料3ページの内容が修正されています。

汎用的な資質・能力を高める授業づくり

- ✓相手の話に耳を傾け、集中し、理解すること
- ✓相手と意見を比べたり修正したりしながら自分で考えること
- ✓自分の考えと理由をはっきりさせて発表し、話し合いをつなげて発展させること

新学習指導要領がめざす「思考力、判断力、表現力」や「主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）」の育成を含んでいる

【受講者の感想】

- ・ これからの時代に求められる資質・能力は、私たちが受けてきた従来型の教育で身に付くようなものではない。自分の経験にとらわれることのないよう、教師自身がしっかりと学び、日々の授業改善に取り組まなければならないと思った。
- ・ 将来子どもたちが就く仕事では、人間にしかできない「考えること」「問いを創り出すこと」の能力が求められる。そのために「考える力」を身に付けさせる授業を心がけていきたい。

【全学級公開授業】（各教室）

- 1 年生：国語、数学、理科、社会、特別活動
2 年生：特別活動（ひらめき教室 ～ハートフル職場体験～・～グッジョブ職場体験～）
3 年生：特別活動（先生たちの住むマンション ～キャリア教育～）



※ 研究の取組につきましては、後日発行されます所報に詳しく掲載します

実践を変える2つのヒント 教師が変われば生徒が変わる 生徒が変われば学校が変わる

高知大学 准教授 鹿嶋 真弓 先生

教師力を向上するために大切なこと：西部中の取組から

- ・ アセスメントとストラテジー（現状と課題を把握、改善のための体系的な行動計画）
- ・ セルフモニタリング（自分の行動や考えや感情を自分で観察記録すること）



○ シミュレーションシートの活用
（学級経営のストラテジーを立てる）

2 めざす学級像

3 具体的な行動

1 現在地
（●課題／○リソース）

4 アプローチ

- ・ いつ、何をどのように学級で行うか
- ・ うまくいったものは続ける、うまくいかない方法は別の方法に変える

○ 蓄積データの活用

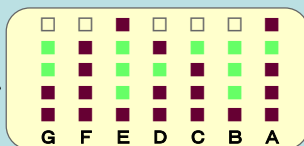
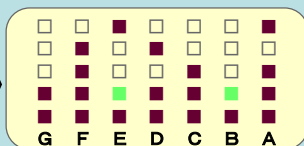
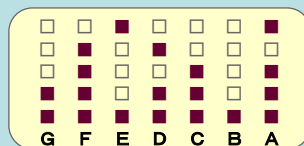
教師が生徒に対して行った具体的な対応（5W1H）を記録する。そのなかで、「効果があった場合」と「効果がなかった場合」に分類し、その結果に基づいて有効な指導方法を絞り込み、効果のない指導方法はやめるためにデータを蓄積する。
⇒ 西部中では235のデータを蓄積（H26年度）



- ・ 自分の指導や行動が、生徒の望ましい行動変容につながっているか否かをセルフモニタリングすることで、自らの指導方法を修正することができる。
- ・ 仲間の指導方法を知ること、指導のレパートリーを増やすことができる。

○ 学びのリレー：ボタンタッチ方式（全員を連れて行く授業）

※ 下の図は学習の積み重ね（5段階）のイメージ図で、A～Gは生徒を表し、■は理解している部分、□は理解できていないところを表す。発表順は【B→G→C→D・F→E・A】。第1段階しか理解できていないBがまず発表し、次にGが発表（中央の図）し、全員で順番に理解をしていく。



上の図では、Aを1番に発表させない。Aが説明を始めた時点で全員が自分で考えることをやめる。

協働の意味生成

「途中までしか言えないから参加できないんじゃないくて、途中までしか言えないから1番に言わせてほしい。」

○ ディープ・アクティブラーニング

- 1 方法がアクティブであると同時に内容がディープであること
- 2 外的活動だけでなく内的活動でもアクティブであること



魚の捕り方を教えるのではなく、捕り方を一緒に考えるのがアクティブ・ラーニング

主体的

人から言われる前に、やるべきことを自分の頭で考えて行動する

【三つの学びとディープ・アクティブラーニング】

- ・ 深い学び……… 習慣・活用・探究という学習プロセスのなかで、問題発見・解決を念頭に置いた学び ← 他者世界との関係
- ・ 対話的な学び… 他者との協働や外界との相互作用を通じた学び ← 他者との関係
- ・ 主体的な学び… 見通しをもって取り組み学習活動を振り返って次につなげる学び ← 自己との関係